

## 大野市総合計画・総合戦略推進会議 第2回ごみ減量部会 議事メモ

日時 令和3年8月12日(木) 午後3時~4時30分

場所 結とびあ 301号室

- 出席委員：8人 ※欠席なし。このほか環境・水循環課職員が1名出席
- 事務局：3人

### 1 開会

事務局より開会

### 2 部会長あいさつ

- ・前回の会議では活発な意見をいただき感謝申し上げる。
- ・長野県が「チャレンジ800」という、1人1日ごみ排出量800グラム以内を目指すという事業を行っており、全国のごみ排出量の少なさランキングで5年連続日本一になった。
- ・これに対して大野市の1人1日ごみ排出量は約950グラムであり、この差は何か調べると良いと思う。

### 3 協議事項

(1) 第1回の振り返りと第2回の進め方…資料1-1・資料1-2

事務局より説明

- ・今回は「雑がみの分別回収」及び「食品ロスの削減」に焦点を絞って議論したい。
- ・理由としては、前回のアイデア出しで活発な意見が出された分野であること。また、市の「燃やせるごみ」の内訳のうち、最も多いのが「紙類」で、2番目が「ちゅう芥類(生ごみ)」であること。さらに、これらの分野は市の取り組みがチラシによる普及啓発などに留まっており、具体的な動きが少ないこと。

委員より意見なし

(2) 「雑がみの分別回収」及び「食品ロスの削減」に係る市の取り組み…資料2

市環境・水循環課より説明

### (3) 全体での意見交換

#### ①雑がみの分別回収について

委員：コーディングされた箱、お酒の紙パック、窓明き封筒など何が雑がみに含まれるのか分からない。分別して出したとしても、その後リサイクルされているのか疑問。

委員：回収業者に携わっているが、リサイクルはしている。ただし、何%までなら不純物が混ざっていても良いという許容範囲もある。

委員：県の婦人会でどんな種類の雑がみが出るのか調べたところ、最も多かったのがダイレクトメールであった。

委員：市は、古紙類を出す際の注意として「丈夫なひもでしばって…」としているが、多くはビニールひもでしばられており、それがプラごみになっている。福井市では「紙ひも」を推奨しており、9割5分は紙ひもで出されている。これを推奨してはどうか。また、福井市では以前、「雑がみ回収袋」を無料で配ったこともある。

委員：以前は、市の「ごみカレンダー」の上の方に、燃やせるごみや燃やせないごみはこのようなものですよというイラストがしっかり描いてあったと記憶している。市民も必ず見るものなので、ごみカレンダーで雑がみの種類を周知してはどうか。

委員：何が雑がみに含まれるのか分からない。

委員：市では、古紙類のうち、新聞、段ボール、紙パック、シュレッダー紙くずを除いた「その他の紙」を雑がみとしている。具体的には、チラシ、雑誌、厚紙、お菓子の箱など。

委員：「雑がみ回収袋」のように手間をかけずに分別して出せる方法があると良い。ごみを分別して出してもらうことの意識づけにもつながる。

委員：集落の婦人会で市の資源有効利用促進事業（古紙類を回収した団体に1kg当たり6円の補助金を交付）を活用している。この事業を知らない人が多いのでは。また、以前、ある回収業者を視察した際に、古紙類をしばる紙ひもは茶色のもではなく、白にしてほしいと言われたことがある。雑がみ回収袋はとても良いと思う。

委員：雑がみ回収袋を新聞紙で作る方法もある。ごみ箱感覚で使いやすく、指定日に新聞紙ごと捨てることができる。

事務局：県のホームページでは、その作り方を写真とともに掲載している。

委員：新聞紙から作る方法も良いが、男目線からだ面倒と思う人もいる。市が雑がみ回収袋を配布すると分別のきっかけになると思う。

委員：市のごみカレンダーで「その他紙類（雑がみ）」を出せる日が指定されている。雑がみ回収袋を作るのも良いが、その他紙類がどのようなごみなのかを知ってもらえば、みんなその日にきちんと雑がみを出すのではないか。その他紙類の範囲が分かりにくい。

担当課職員：極端に言えば、紙のうち、新聞紙、紙パック、ダンボール、シュレッダー紙くず以外の紙は、すべてその他紙類として大野市では取り扱っている。ティッシュの箱、レトルト食品の紙箱、名刺、ハガキ、洋服についているタグなどもその他紙類に含まれる。これらは燃やせるごみとして捨てられがちであるが、紙袋に入れるなどして指定日に出してほしい。また、福井市が雑がみ回収袋を市民に配布したのは、紙ごみの回収率を上げるためだったと思う。大野市ではある程度、雑がみの出し方は市民に根付いているものと感じていた。

委員：雑がみも市推奨のごみ袋に入れて出さなければいけないと思っていた。雑がみは紙袋に入れて出すということを知らなかった。

担当課職員：福井国体のときに、県が県内の全小学校児童に雑がみ回収袋を配布したことがあった。その袋を繰り返し使ってもらうことが県の狙いであったが、おそらく一回使って捨てた人もいると思う。袋自体もごみになるので、ごみの総量が増えることが難。

## ②食品ロスの削減について

委員：若い人は賞味期限と消費期限の違いを分かっていないと思う。賞味期限が来たらすぐに廃棄している人が多い。賞味期限は美味しく食べられる期間であって食べられなくなる訳ではないので、その辺りを若い人に分かってほしい。

委員：買い物をする際に賞味期限が近いものから購入して、家では早く消費することで、食品ロスの削減につながる。また、一度にたくさん購入することをやめる。

委員：食品ロスに関して、学校や家庭での教育が必要。小売業者には行政からの啓発が必要。また、食べきり運動を条例などによって推奨すると市民に浸透すると思う。

委員：買い物をする前に本当に必要かどうかを考える意識を持つことが必要。

委員：家庭において、キャベツの芯など食べられるけど捨てられている食材を活用したレシピがあると良い。

事務局：福井市では、「食べきりレシピ」という形で、市民が作ったレシピをホームページに掲載している。

委員：スーパーでは、なるべく「見切り品」を購入するようにしている。ふわ女性会では、市内保育園で「見切り品の購入」を推奨する寸劇を行う予定。

部会長：意識が低い市民に対して効果的に広報することが必要。テレビCMなどをできないものか。

### ③部会長総括（雑がみの分別回収・食品ロスの削減）

- ・ごみ減量の意識啓発は、個人の自主性によるところが大きく、コロナの自粛要請と似ている。個人の自主性に任せるだけでなく、アメとムチのアメとして、守った人にはお金を出すような方法も一つ。ただし、大がかりになる。
- ・食べきり条例について、効果はあると思うが、そこまでしなければならないかとも思う。
- ・第1回会議で出たアイデアを徹底するような方策が良い。また、長野県との差を調べることなど。

#### 4 その他

事務局より事務連絡

#### 5 閉会

事務局より閉会